

◇ 本校の子どもたちを誇らしく思う修学旅行でした。

校長 重松 宏明

11月27日、28日、6年生の修学旅行が行われました。今年は、1日目は、「命」をテーマに長崎市を、そして2日目は「自然災害」をテーマに島原市を巡り学習してきました。9月の「令和の旅」の経験が活かされて、2日間、素晴らしい子どもたちの態度で内容の濃い修学旅行が行われました。多くの学校で修学旅行の児童生徒を見てきている旅行会社の方、カメラマン、バスガイドさんが、今年の6年生の細やかな配慮、気配り、メリハリのある活動の姿に感心し褒めてくださいました。ここでは、1日目の平和集会の様子を少し紹介します。

平和祈念像の前で、久原小学校の平和の誓いがはじまると、平和記念像周辺に居られた観光客の皆さんの目が、みんな本校6年生の平和のセレモニーに釘付けになりました。その理由は、くばらっ子まつりで6年生の発表をご覧になられた方は想像がつくのではないのでしょうか。



原稿なしで、次々に力強く、そして長々と発表する子どもたちの姿に、見ている人は引き込まれたのだと思います。海外からの観光客の方もたくさん見ておられました。すかさずタブレットやスマホで映像を撮り始める方もいました。そして子どもたちの美しい歌声が平和公園に響きはじめると、さらに人が集まってきました。披露した「いのちの歌」は平和のセレモニーには、ぴったりの歌です。歌が終わった時、周りから自然に拍手が起こりました。

「ブラボー」という賞賛の声も聞かれました。涙をぬぐっておられるお年寄りの方もおられました。そして、シーンとした張り詰めた雰囲気の中で、2人の女子児童による「折り鶴の献花」が行われました。外国の方は、「いいものを見ることができた」といった表情です。多分、見ていた多くの外国の方に、日本の子どもたち、日本の小学生の素晴らしさを感じてもらったのではないのでしょうか。子どもたちの様子を満足気に見ている人たちを見て、私は、本校の子どもたちを本当に誇らしく思いました。たくさんの方に感動を与えてくれた6年生のみなさん、ありがとうございました。